

【目的】Ca拮抗薬などの副作用として知られる歯肉肥厚は、見た目の悪化や歯周病の誘発など、患者QOLを大きく損なう危険性がある。これを防ぐには症状の早期発見と歯科医師による診断・治療が重要であるが、薬局薬剤師も積極的に関わる必要があると考えられる。

そこで今回、歯科医師の協力のもと薬剤性歯肉肥厚に関する調査を行い、薬剤師が患者の口腔環境へ注意を払う必要性について検討を行った。

【方法】そうごう薬局10店舗において、近隣の歯科医師50名を対象に、以下についてアンケート調査を行った。①薬局での歯科受診勧奨について、②服用薬の確認状況、③薬剤性歯肉肥厚の診断経験、④処方医への連絡について。

【結果】アンケートの結果、薬局で歯科受診勧奨を行うべきとの回答が81%であった。また、86%の歯科医師が薬剤性歯肉肥厚を疑った事があると回答したが、処方医へ連絡を積極的に行くと答えたのは22%にとどまった。27%は基本的に行わないと答えた。連絡を行わない理由として、原因薬剤が特定しづらいという意見が最も多く、対象全体の28%から挙げられた。

【考察】薬局薬剤師の役割として、患者の口腔環境の確認と歯科受診勧奨が求められている事が明らかになった。また歯科医師側の問題点として、原因特定が難しく処方医への連絡が行いにくいことが明らかとなった。薬剤師が歯科医師へ薬剤の情報提供を行い、必要な場合は処方医へ連絡を取ることで、円滑な対応に寄与できる可能性がある。以上より、薬局薬剤師が患者の口腔環境を確認することは重要であり、特に歯肉肥厚などの口腔内副作用のある薬剤に関しては積極的に確認・介入していくべきであると考えられる。